

# 明石市総合交通計画の 基本理念と目標

# 1. 明石市総合交通計画の基本理念

## (1) 基本理念の考え方

令和4年3月策定の「あかしSDGs推進計画（明石市第6次長期総合計画）」の中で、本市のあるべき姿として「**SDGs未来安心都市・明石～いつまでも すべての人に やさしいまちを みんなで～**」を定め、将来にわたり誰もが安心して住みたい、住み続けたいと思うまちを目指しており、それを踏まえ本計画では、行政、事業者、市民が適切な役割分担のもと「誰もが安全・安心かつ円滑に移動できる持続可能な交通体系」を確立し、「人と人」「人と地域」そして「地域と地域」とのつながりを促すことで、豊かな自然環境や文化など恵まれた地域特性が活きるまちづくりを進めます。

## 基本理念

みんなで持続可能でやさしい交通体系を守り・育てる  
～「人と人」「人と地域」「地域と地域」をつなげる公共交通～

### 明石の地域特性

#### ①優れた利便性を持つ都市構造

- ・ 公共交通機関が充実し大都市へのアクセス性が非常に高い
- ・ 東西道路や、内陸部を結ぶ南北道路の整備も進展
- ・ 大都市のベッドタウンとして、鉄道駅を中心に密度の高い市街地を形成

#### ②海をはじめとした恵まれた自然環境

- ・ 希少な砂浜を有し、明石海峡大橋や淡路島を望む美しい景観を誇る
- ・ 海の幸は、魚の棚商店街とともに、全国的なブランド
- ・ 市西部地域を中心に緑豊かな丘陵や農地が広がり、かんがい用のため池も数多く点在

#### ③日本の標準時を伝えるまち

- ・ 日本の標準時の基準となる東経135度子午線が通るまち
- ・ 天文科学館はこの子午線上に位置し、国の登録有形文化財

#### ④コミュニティづくりへの取り組み

- ・ 昭和50年（1975年）に「コミュニティ元年」を宣言し、市民の力によるコミュニティのまちづくりを推進
- ・ 平成22年（2010年）に自治基本条例を制定し、市民主体の自治を推進するための体制を整備

## 2. 明石市総合交通計画の目標

### (1) 現計画の目標

基本理念を踏まえ課題を解決するための、計画の目標設定に向けて現計画の目標のメリットと課題について整理します。

現計画の目標	メリット	課題
公共交通利用者数 1億人/年に増大	<ul style="list-style-type: none"><li>基本理念、課題の解決に向けた目標として適切。</li><li>一般的に分かりやすい。</li><li>データの取得が容易であり、毎年取得することが可能。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>特になし</li></ul>
交通手段分担率 公共交通を22%に増加 二輪・徒歩を46%に維持	<ul style="list-style-type: none"><li>基本理念、課題の解決に向けた目標として適切。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>国が実施するPT調査のデータより算出するため、毎年データを取得することが不可能。</li></ul>
外出割合 77%を維持	<ul style="list-style-type: none"><li>基本理念、課題の解決に向けた目標として適切。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>国が実施するPT調査のデータより算出するため、毎年データを取得することが不可能。</li></ul>

## 2. 明石市総合交通計画の目標

### (2) 目標の追加について

交通手段分担率と、外出割合は、毎年のデータ取得が困難なことから、毎年データ取得が可能な目標の追加を検討します。

追加目標案（例示）	内容	課題
公共交通利用圏	市街化区域内の公共交通利用圏を算出	カバーしている人口若しくは面積かの検討が必要
バスの運行回数	市内を運行するバスの運行回数	運行回数のカウント方法について検討が必要
コミュニティバスの収支率	コミュニティバス全体の収支率	見直し基準との整合性について検討が必要
公共交通の満足度	満足度を市民アンケートで把握	アンケートの実施方法（毎年実施できるか）
公共交通利用率	アンケート等で市民がどれくらい公共交通を利用して いるか算出	アンケートの実施方法（毎年実施できるか）